

抜き取ってお読みください

厚木市教育委員会だより

Atsugi City Board of Education
厚木市
教育委員会だより

ナビ

エデュ
Edu Navi

Education is a Navigation
for the Future



未来を担う
人づくりのために



人は、生きる上で、多くのものを求められます。決断力、自立心、協調性、規範意識、学問の知識、健やかな心…。どれもたやすく得られるものではなく、家庭や学校、地域の人々に大切に育まれることで身に付いていきます。

教育委員会の使命は、学校教育と家庭教育、公民館や図書館などが担う社会教育の充実にあります。「未来を担う人づくり」こそが教育のあるべき姿と捉え、明日を生きる人々の今に寄り添います。

一方で、その取り組みは多くの人には見えにくいものかもしれません。人づくりとは、まさに未来づくりへの営み。新たに創刊するこの広報紙では、教育委員会や学校、地域の人々の営みがつくる今と、目指す未来を描いていきます。



〔特集〕やる気UPで学力UP



児童に寄り添い丁寧な学習支援を心掛ける高山さん



教室を動き回り生徒の学習をサポートする板東さん

一人一人に寄り添った学習支援 学力ステップアップ 支援員を充実

教育委員会では、授業で教員をサポートする学力ステップアップ支援員を全市立小・中学校に派遣しています。今年度は人員や支援内容を一層充実。子どもの状況に応じた支援で基本的な学習の理解を深め、学力アップにつなげます。

支援員の主な役割は、小学校低学年での学習・生活指導の補助と、高学年での算数・理科の学習支援です。中学校では、数学と英語を中心に、教科の枠を超えた支援をしています。さらに、授業の準備や授業外の学習相談、小学校で夏休みに実施するサマースクールでの指導補助のほか、今年度はあつぎICT元氣塾も活動の場になるなど、役割は多岐にわたります。

子どもの学ぶ意欲を後押し

変化の激しい社会を生き抜けるよう、私たちは子どもたちの確かな学力を育む必要があります。教育委員会では、学校への冷暖房の設置や情報通信技術(ICT)の導入、教員を補助する職員の配置、少人数学級の実施など、授業をより効果的にする取り組みを進めています。ここでは学力アップに向け、今年度特に力を入れている二つの取り組みを紹介します。国教育指導課 ☎225・2660

中でも、特に求められている役割は、子どもたちの学ぶ意欲を引き出すことです。小学校で支援員を務める高山大希さんは「つまづきやすいのは高学年の算数。対一の対応で理解を支え、やる気を失わないように心掛けて」と話します。一人一人に向き合った支援により、児童生徒からは「質問しやすいので分からないところを放っておかずに済む」「考え方を教えてくれるので授業についていける」などの意見が寄せられています。

学校に欠かせない存在に

支援員を務めているのは、教員経験のある人や教職を目指す人、適切な支援ができると思われる人などです。今年度で8年目となる板東園美さんは「1回教えたら、その後にも話し掛けて理解の定着を確認している。生徒が学習に前向きになってくれることが一番うれしい」と笑顔でやりがいを話します。

教員からは「私たちが時間を割きにくい個別指導に当たってくれるのでとても助かる」「子どもたちと親しく接し、しっかりとした人間関係をつくってくれるので頼もしい」といった声が上がっています。教育現場に欠かせない存在となっています。

授業をより充実したものに

変化の激しい時代を生きる子どもたちには、基本的な知識・技能の習得に加え、学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などを含めた幅広い学力が欠かせません。教育委員会では、確かな学力を育むために、授業研究や研修の充実など、教員の授業の質を高めることを基本に取り組んでいます。その上で、学力ステップアップ支援員をはじめとした教員を補助する職員を配置(左欄参照)。授業や学校生活をより充実させる取り組みを展開しています。



田んぼは発見がいっぱい(依知北地区)

ハード・ソフトの両面で 学びをサポート

やる気UP で学力UP

情報技術の活用でより深い学びに タブレット端末を 全小・中学校に導入

教育委員会では今年度、タブレット端末40台を全市立小・中学校36校に導入しました。狙いは子どもたちの学習意欲を高め、深い学びにつなげること。ICTを活用し、より分かりやすい授業を展開していきます。



タブレット端末が子どもたちの学ぶ意欲を引き出す



教室に運び込み、1人1台での使用が可能に

端末はキーボードとマウスをつなぎ、ノートパソコンのように使うことも、携帯端末として教室から持ち出すこともできます。その持ち運びやすさと撮影機能を生かし、ハードル走や跳び箱、合唱などを動画撮影し、動きなどをその場で確認したり、2画面表示で比べたりできます。林中学校の和出好生先生は「防じん・防水で持ち運びができるので、体育の授業での使い勝手は飛躍的に高まった。子どもたちもその場で自分の課題を見つけて改善に取り組みでくれる」と端末の導入を喜びます。

活用の幅が広いタブレット端末

1 一人1台割り当てられた端末を、子どもたちが迷いのない手つきで操作しています。昔では考えられなかった光景が、現実のものになっていきます。全国で進む「教育の情報化」。情報を的確に活用できる力の育成と、ICTを生かした学力アップへの取り組みが厚木市でも進んでいます。



▲2画面を表示して動きを比較
▼動きを録画して自分の問題点をチェック

タブレット導入でリニューアル! あつぎICT元氣塾

学ぶ内容が増える小学3年生を対象に、月2回程度、放課後を利用して学習支援をします。今年度からはタブレット端末を導入して算数の計算や国語の読解問題に取り組み、学習意欲の向上と基礎学力・学習習慣の定着を目指します。課題を自ら解決し、自分で乗り越える力も養っていきます。



ドリル学習の反復で学力アップへ

イチオシポイント 教育を充実させる補助員などを配置

- 学校司書 学校図書館の蔵書管理や本の紹介・相談などに対応
- 特別支援教育介助員 障がいのある児童・生徒を介助
- ICT活用支援員 タブレットの効果的な活用方法を助言
- あつぎICT元氣塾サポーター タブレットなどを使った学習を支援
- 部活動指導協力者 専門的な技術や知識を持つ地域の人材が中学校の部活動を指導
- 日本語指導協力者 外国籍児童・生徒や帰国児童・生徒の学校生活を支援
- 外国語指導教室支援員 日本語が十分に理解できない外国籍児童・生徒を支援
- 外国語指導助手 英語を母語とする講師が本場の英語で授業を実施
- 学習支援ボランティア 大学生などの登録されたボランティアが学習を支援
- 元氣アップアシスタント 子どもたちの悩みなどの相談に対応



子どもと本の架け橋となる学校司書



全ての小・中学校に外国語指導助手を派遣

イチオシ政策

PICK UP 1 コミュニティ・スクール

地域に開かれた学校づくりを進めるため、保護者や地域の皆さんが学校の運営に参加するコミュニティ・スクールを平成30年度までに全市立小・中学校に導入します。モデル校では、書道やそろばん、本の読み聞かせなどのボランティアとして子どもたちをサポートしたり、花壇の手入れや学校の補修などで学習環境を整えたりするなど、地域ぐるみで学校づくりに取り組んでいます。



ミシンの使い方を保護者がサポート(相川小)

PICK UP 2 元氣アップスクール

子どもたちの生きる力を育み、特色ある学校づくりを進めるため、小・中学校が独自の取り組みを提案する元氣アップスクール推進事業を実施しています。昨年は、学校周辺の自然環境を生かしたゲームや自然観察、手話や車いす体験などの福祉学習、小麦の栽培から収穫、うどん作りまでの体験学習など、学校の特色や地域の人材を生かした取り組みをしました。



学校裏の森でゲームを体験(上荻野小)

PICK UP 3 地域ぐるみ家庭教育支援

地域が一体となって子どもたちを育てる意識を高めるため、公民館を拠点に地域ぐるみ家庭教育支援事業を今年度から全地区で実施します。昨年のモデル地区では、地域の皆さんが田植えから収穫までを親子に教える稲作体験のほか、子どもが防災訓練に参加しやすい防災キャンプ、子どもが親元から離れた公民館で自炊・宿泊し学校へ登校する通学合宿を開催しました。



田んぼは発見がいっぱい(依知北地区)

教育委員会だより 「Edu Navi」発刊に 当たって



市長 小林 常良

「将来を担う子どもたちを、健康に心豊かに育みたい。こう強く願うのは、私だけではないでしょう。厚木市では「子育て教育環境日本一」を目指し、子どもを懸命に育てる保護者と、学校や家庭、地域で多くのことを学ぶ子どもたちを両面から支えたいと考えています。私が市政運営の信念として掲げる「市民協働」の環として、全市立小・中学校に「コミュニティ・スクール」を導入します。保護者や地域の皆さんに学校運営に直接関わっていただき、子どもたちを地域全体で育てていく仕組みを2年かけて整えてまいります。学校現場では、多くの先生や協力者の皆さんが、温かい目で子どもたちを見守り、一人一人の健やかな成長を手助けしています。しかし、その審判は保護者や地域に伝わりづらいのが現実です。「Edu Navi」が「コミュニティ・スクール」をはじめとする「あつぎの教育」の今を伝え、「未来を担う人づくり」への理解を広げられることを期待しています。



スポーツで人と人のつながりを

スポーツ推進委員 齋藤 潤さん (46・上依知)

推進委員として、市民体育祭やみD A Yなどの運営に携わり23年目になります。委員になったきっかけは、大学を卒業してすぐに、地元の名北公民館の館長から声を掛けられたことです。公務員として愛川町役場に勤め始めたこともあり、「地域のことに協力しよう」と思い、引き受けました。活動の場へ行つてみると、周りにはベテランの方がばかり。なじめるか不安でしたが、話をするとみんなスポーツ好きだと分かり、今では、市内外の委員の皆さんとの交流を楽しんでいます。土・日曜の催しや夜の会議などもあります。大変だと思っただことはありません。大好きなスポーツに関わる仕事です。

私自身、幼い頃から外遊びが大好きでした。小学校ではソフトボール、中学・高校は陸上部で長距離種目に打ち込みましたが、大学生の時トライアスロンの雑誌を偶然見つけたことが、その後の競技人生を決めました。スイム・バイク・ランを二気になす選手は、純粋に格好良かった。仲間を見つけてサークルを立ち上げ、練習に汗を流しました。就職後は、出勤前のスイムや通勤ラン・バイクなど、工夫して練習時間を確保しました。仕事

勤続23年で関東スポーツ推進委員協議会から表彰を受けた

スポーツ推進委員

推進委員(旧体育指導員)は、地域にスポーツを普及させる役割を担っています。市内では、71人が教育委員会から委嘱を受けて活動しています。

【主な活動内容】

- スポーツイベントへの協力
- 地域住民などへの実技指導
- スポーツの普及活動 など



イベントの受け付けなどを担当

☎スポーツ推進課 ☎225-2531

私は「目標に向けた努力の積み重ねが結果につながる」ことを、スポーツから学びました。私の3人の子どもたちも皆、部活動などで頑張っているようです。働きながら、コツコツと競技を続けてきた私の姿を見てくれたのかも知れません。

スポーツは、健康やストレス解消に良いのももちろん、人と人が世代を超えてつながるきっかけにもなります。多くの人がスポーツを楽しみ、たくさんの方の交流が生まれるよう、委員みんなで活動していきたいですね。



①佐渡国際トライアスロン大会は、スイム2^h、バイク105⁺、ラン20⁺を5時間ほどでゴール
②湘南ベルマーレのトライアスロンチームにも所属し練習を重ねている

親子のための 耳より! info インフォ

子どものスマホ利用 本当のリスクとは!?

スマートフォン(スマホ)を持つ年齢は年々下がり、昨年の調査では小学6年生の約6割が持っているという結果が出ています。スマホは便利で楽しい反面、有害サイトやネットいじめなどの危険性もはらんでいます。でも、スマホの本当の危険って、何でしょうか。

それは、「便利さ」そのものではないでしょうか。インターネットで多様な情報が得られ、ゲームや交流ができることで、目的もなくスマホを使いがちです。「便

利さ」への依存により、苦勞せずにゴールにたどり着くことに慣れてしまい、考える力、工夫する力、我慢する力などを育む機会が奪われていきます。

しかし、子どもをスマホから遠ざけるだけでは解決につながりません。例えば、電話、ゲーム、インターネットなどの必要性や使い方を、子ども自身に考えさせるきっかけを与えてみましょう。スマホ以外のやり方や工夫があることを発見できるかもしれません。

数字で見るあつぎの教育

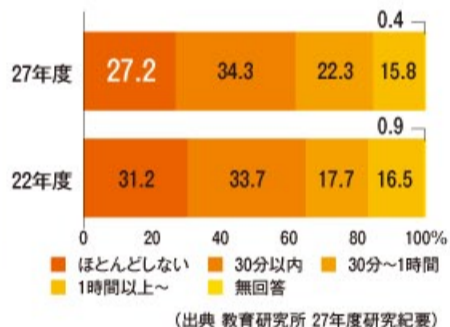
Q これって何の数字

27.2%

A ほとんど読書をしない厚木の小学生の割合です。

およそ4人に1人が本を読んでいないことになります。本には、想像力をかき立てる物語や、調査に基づく詳しい解説などが詰まっています。子どもたちの創造力を高め、知識の幅を広げてくれます。昨年、ノーベル文学賞を受賞した米国の歌手、ボブ・ディランさんも「若い頃から、ヘミングウェイなどの作品を読み、親しみ、吸収した」と、本からの影響を語っています。

しかし、何を手に取ったら良いか分からない子どもは多いのではないのでしょうか。



大切なのは、本に触れるきっかけづくりです。まずは保護者が、スポーツや音楽など、子どもが興味を持っている本と一緒に探ることがお勧めです。

中央図書館には、約63万冊の本があり、図鑑や児童向けの本だけでも約18万冊あります。職員がお勧め本を紹介してくれたり、一緒に探してくれたり、本探しには最適です。もうすぐ夏休み。親子で図書館や公民館図書室に足を運んで、心に残る一冊を探してみたいはかがですか。

未来の種

毎年、地域や学校の行事で多くの地区や小・中学校を訪問させていただいています。ある地区の公民館まつりに伺った時、参加している多くの子どもたちを眺めながら、公民館長さんが満面の笑みを浮かべておっしゃいました。「教育長、子どもは地域の宝だよ。俺たちにはできることは何でも遠慮なく言ってくんなよ」。子どもたちを見守る地域の皆さんの温かさにも触れると同時に、大人をこんなにも笑顔にする子どもたちの存在の大きさを改めて実感しました。

厚木市は、そんな子どもたちが、毎日笑顔で安心して安全に家庭、学校、地域で生活できるよう、「未来を担う人づくり」を教育の基本理念に掲げ、さまざまな施策を展開しています。保護者や地域の皆さんのご理解、ご協力を得ながら、これからも教育環境日本一を目指して全力で取り組んでまいります。

私は教育長に就いてから、教育委員会が担う学校教育や社会教育への取り組みをもっと多くの方に知っていただきたいという思いを抱いてきました。本紙を通して、さまざまな教育施策や子どもたちの躍動する姿を積極的に発信し、「地域の宝」であり「未来の担い手」である子どもたちへの願いを皆さんと共有していきたいと思っております。

教育長コラム 日直 曾田 高治